

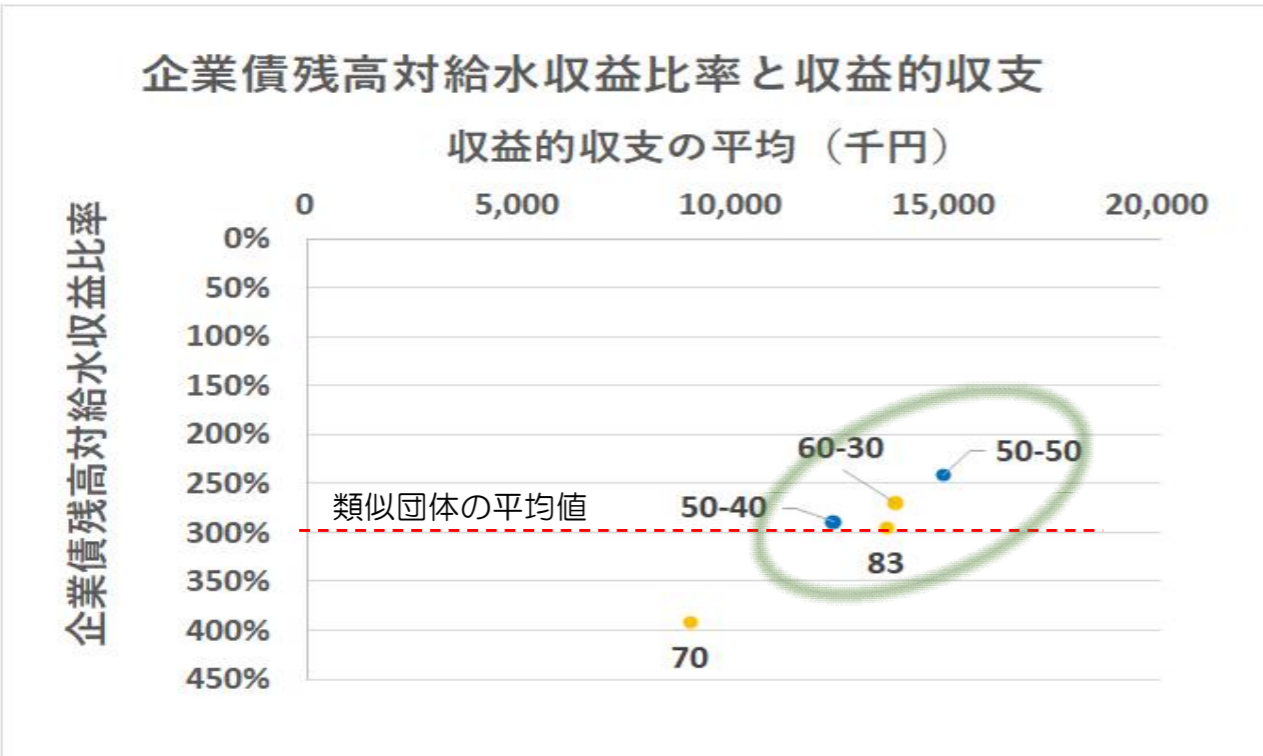
再シミュレーション結果

①②③シミュレーション結果

- ・1回の改定のみで、最終年度に企業債残高対給水収益比率を300%に抑えるには、83%の改定が必要。
- ・1回目が60%改定の場合、2回目は30%が収支バランスは良い。

④1か月あたり10m³の水道料金のシミュレーション

- ・現在は1,199円
- ・年間支払総額14,388円
- ・10年間支払続けると支払総額は143,880円



改定率(%)		改定後の金額(円)		10年間の金額(円)	
R8	R13	R8~12	R13~17	支払総額	現行料金との差額
83	-	2,194 (995)		263,280	119,400
70	-	2,038 (839)		244,260	100,680
60	30	1,918 (719)	2,493 (1,294)	264,660	120,780
50	40	1,798 (599)	2,517 (1,318)	258,900	115,020

※ () 内は現行料金：1,199円との差額

まとめ

- (1) 83%の1回改定よりも50%と40%の2回改定の方が、10年間の支払総額は小さい。
(83%の1回改定は、R8~12の支払額が大きいため)
- (2) 70%の1回改定は支払総額が小さくなるが、企業債残高対給水収益比率は390%になるため、次世代への負担が大きい。
(金額を安く抑える分については、起債に頼る必要があるため)
- (3) いずれにしても1回改定の場合は、今後、急激な社会情勢による変化の対応が難しい。
(物価や人件費の高騰、県水単価の値上げなどへ対応)

83%や70%の高い改定率は、利用者にとって負担が大きい



- ・R8の改定率は50%以上とする。
- ・5年後を目安として、再度、適正な水道料金のあり方について、検討することで段階的な見直しを行う。